

様式 4

<p style="text-align: center;"><b>令和 7 年度第 4 回</b></p> <p style="text-align: center;"><b>富士見市図書館協議会</b></p> <p style="text-align: center;"><b>議事録</b></p>						
<b>日 時</b>	令和 8 年 3 月 6 日 (金)		開会	午前 10 時 00 分		
			閉会	午前 11 時 20 分		
<b>場 所</b>	中央図書館 レセプションルーム					
<b>出 席 者</b>	委 員	木下委員長	野澤委員	西村委員	黒澤委員	今井委員
		○	×	○	○	○
		神馬委員	内海委員	藤巻委員	戸田委員	向井委員
		○	○	○	○	○
	事務局	<p>○教育委員会生涯学習課 西澤主査 田中主任</p> <p>○図書館 長谷川中央図書館長 宮崎中央図書館副館長 大里鶴瀬西分館長 下川ふじみ野分館長</p>				
<b>公 開 ・ 非 公 開</b>	公開 (傍聴者 1 名)					
<b>次 第</b>	<p>図書館協議会</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 各館事業報告 (令和 7 年 1 1 月～令和 8 年 1 月活動報告) 中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館</p> <p>3. 利用促進と広報活動について</p> <p>4. その他</p> <p>5. 閉会</p>					
<b>配 布 資 料</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富士見市図書館協議会 令和 7 年度 3 月定例会次第</li> <li>・ 令和 7 年 1 1 月から令和 8 年 1 月活動報告 (中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館)</li> <li>・ さざなみだより 2026 年 1 月号・2 月号・3 月号</li> <li>・ とびらしんぶん 2026 ねん 2 がつ</li> <li>・ BOOK ADVENTURES 第 256 号・257 号</li> <li>・ つるせにししんぶん 2026 年 1 月号・2 月号・3 月号</li> <li>・ ぶんちゃんしんぶん 2026 年 1 月号・2 月号・3 月号</li> </ul>					

## 議 事 内 容

委員長	<b>図書館協議会会議</b> 1. 開会
	2. 各館事業報告（令和7年11月～令和8年1月活動報告）
図書館	<b>【中央図書館】</b> ・資料に基づき報告
	お話会や映画会等の数字などは資料の活動報告の通りである。
	自主事業の報告 11月
	「館内ミニ展示」
	水谷小学校の総合学習で、近隣の地図を作成する授業があった。図書館を利用して作成し、完成品を展示してほしいとの希望があり、12月・1月のミニ展示で館内に設置した。作品に2次元コードを記載してアンケートの募集をしていた。今後の授業に役立てたいとのこと。
	「図書館まつり」
	雨のため例年より来館が少なかったが、1,360名の来館者があり各種イベントを楽しんでいただいた。
	○図書館まつりで開催したイベント
	「ビデオで振り返る『富士見市』」
	ふじみビデオクラブが制作した市内映像を上映した。ふじみビデオクラブの上田氏による解説もあり、毎年来館されるリピーターもいて会場は和やかな雰囲気だった。上映した映像の一部をDVDとして寄贈いただいたので、貴重な市内の映像として、今後利用者へ提供していく。
	「大きな絵本のおはなし会」
	読み聞かせボランティアあいあいによるお話会。通常の読み聞かせだけではなく、参加型のものもあり、おまつりならではのお話会を提供した。お話会以外の時間でも大型絵本を自由に見ることができ、子どもたちが読んでほしい場合は要望に応じて読み聞かせを行った。

「バリアフリー映画会」「リサイクルフェア」は例年通り盛況だった。  
「第8回富士見市子ども読書コンクール表彰式」  
例年通りPOPの展示スペースは賑やかに飾り付けられ、それぞれのおすすめ本をご覧いただいた。作品のレベルも上がっている。

「ボードゲームであそぼう」  
定期的に行っていたボードゲームのイベントもあり、参加者が定着してきた。今後も多くの参加を目指し、YA世代の参加へつなげたい。

「やってみよう！郷土かるた～富士見文化財かるた～」  
文化財に興味をもってもらうため、富士見文化財かるたを使用した。ゲーム性を高めるために、かるたをA4サイズに拡大し、部屋全体を使って絵札を取る形にした。初めての開催で「大きなかるた」のイメージがうまく伝えきれず集客に苦労した。参加者からは「楽しかった」とのご意見があったので、広報や集客に工夫が必要だと感じた。

12月

「えほんとピアノ」  
大人向けにクリスマスに合わせた絵本や曲を選んだ。ピアノの生演奏をバックに読み聞かせを行う。2回目の開催で前回よりも参加者が多く、年齢層の幅があった。大人向け人気イベントとして定着しそうである。

「クリスマスおはなし会」  
想定していたよりも多くの参加者があった。スケッチブックシアターやパネルシアターなど普段と違うお話や、歌やベルなどもクリスマスらしく喜んでもらえたようである。

1月

「新春工作会 一日製本職人になろう！」  
大人向けのイベント。中学生から70代まで幅広い年齢層の参加があった。製本会社から講師を招き、製本の工程を映像を交えながら詳しく説明した。活発な質問が出て楽しく学べ、本に関わる図書館らしいイベントだのご意見をいただいた。このようなイベントに需要があると改めて感じた。

「読み聞かせ講座 スキルアップ編」  
グループワークを中心としたスキルアップ講座となった。発表や話し合いの時間も多く取り、普段の疑問点の解消や他の方の読み方を見て勉強になったという意見が多かった。参加者は読み聞かせ活動をされているので、いろいろな講座を望む声もあった。

図書館

「としょかんクラブ」  
毎月1回行っているが、11月や12月の活動は図書館まつりの飾りの作成やクリスマスに合わせた福袋をつくるなど図書館のイベントと一緒に作っていくお手伝いをしてもらった。

**【鶴瀬西分館】**

・資料に基づき報告  
お話し会や映画会等の数字などは資料の活動報告の通りである。

自主事業の報告

11月

「図書館たんけん手帳」

富士見市子ども読書月間に合わせて作成。簡単な分類を学ぶものである。以前は館内利用の希望者へ用意をしていたが、今年は近隣の小学校で配布してもらうため、全学年対象で実施した。低学年には内容が少し難しかったようなので今後用紙の改良を行う。今後も達成感も感じてもらいながら、楽しく本に親しんでもらえるような工夫を継続していきたい。

「歴史講座『富士見の遺跡散歩』」

昨年度「鶴瀬地域の遺跡」という歴史講座を行っており、それを受けて今年度鶴瀬西分館から近い遺跡跡の散歩を計画した。通常は2時間半程度かかるコースだった為、残念ながら鶴瀬西分館に一番近い権平沢遺跡は資料提供とし、鶴瀬駅出発-打越遺跡で折り返し-鶴瀬駅到着のコースとした。参加者は富士見市在住の方も多くいたが、「こんな道があったのか」「ここでここが繋がっているのか」など身近でも知らないことがたくさんあったようだ。歩くことで昔の生活について実際に考えを深められ、また全員無事に2時間歩き切れたことが良かった。

「つるせ台まつり」

つるせ台まちづくり協議会主催のおまつりで、図書館は毎年工作で参加している。昨年度まで「PTA秋まつり」にも参加していたが、今年から両方のおまつりが合同になったため、つるせ台ひろばとPTAと一緒にブースを作って「なぞなぞビンゴ」「おまつり万華鏡」と「ピンチシューター」を行った。おまつりには、図書館YAサポーターの参加もあり、児童や多世代との交流を深めながら工作体験を行った。

「富士見市子ども読書コンクールPOP巡回展示」

中央図書館の「図書館まつり」で表彰を行った後に、期間を決めて市内近隣の学校（つるせ台小学校・鶴瀬小学校・富士見台中学校）の受賞作の巡回展示を行った。例年はカウンター横上に掲示するが、

今年は見やすいように場所を変えて、一般閲覧席の柱の各三方面を使い設置した。賑やかな柱になり、皆さんの元気な本の紹介を届けられた。

「自然あそび けいあい『のびのびひろば』 青空えほん」  
今年3回目の実施。場所は、恵愛病院の広場。協力機関としてNPO法人ふじみっこ・夢みらい、富士見市市民人材バンク登録者の自然観察ガイド、そして鶴瀬西分館が参加した。読み聞かせは、今年には時間内に3回行った。読み聞かせ以外の時間は、図書館が持っていった本をそこで自由に読んでもらえる。協力機関の連携は、本の読み聞かせで秋を感じてもらい（図書館）、それを自然ビンゴを使って五感で探し（自然観察ガイド）、工作で形にする（ふじみっこ・夢みらい）。今年の工夫として、使用できる葉や実に名前がわかりやすくつけられていた。図書館には遠くてなかなか来館できないという方は、青空えほんのリピーターだと話してくださった。また今年度は名前のついた植物をいただき、図書館で標本のように作成し、カウンターで展示した。館内では、親子で植物を見て名前を確認する姿が見られ、広場でも図書館でも秋を感じていただけた。

「赤ちゃんとわらべうたで遊びましょう」  
こちらは年2回実施している。今年度の参加者は全員女の子だった。興味を示す姿や遊ぶ姿は真剣そのものだった。以前上の子が参加したというリピーターの方もいた。毎年実施していることで少しずつ周知され、参加が増え図書館デビューに繋がっていると考える。

12月

「おりがみでつくるちいさいクリスマスツリー」  
今年、例年作成している蛇腹折りのクリスマスツリーに限らず、創意工夫を持って様々な折り方でクリスマスツリーを作ってよいこととした。作成後は、持ち帰るか館内に飾ってもらう。館内がクリスマスらしくなる季節的行事の1つとなっている。

「スペシャルおはなしかい・いちぶえいご」  
今回は年長さんぐらいから小学校中学年程度の子どもたちの参加があった。質問に答えてくれる場面がいつもより多く、このおはなし会もだんだん浸透してきて、皆さん気軽に参加されている。

「クリスマス★リトミック&コンサート♪」  
例年事業だが、今年度から講師が変わっている。リトミックは音に合わせて、体を動かしながら参加する。最近はお子さんのリズム感が良いと感じている。また、2部のコンサートは、幼児のみならず保護者も聞き入っていた。「若い頃、子どもがいない時にはミュージ

カルを観劇に行っていたが、久しぶりに聞いた。良かった。」という感想もあった。皆さんに満喫していただけたと考える。

「つるせ台小学校コラボ新春企画 『本の福袋』」  
毎年恒例行事となっているつるせ台小学校の高学年の有志に図書館の仕事体験の1つとして福袋を一緒に作ってもらう。今年の工夫としては、本の福袋が浸透してきて、一般の利用が多くなってきたので、毎年5袋7種類を作っていたが、一般のみ10袋用意した。結果貸出につながった。

「～本の中の昔のあそび～キッズ扇だこの作成と凧あげ」  
郷土民芸である扇だこ。保存会が体験用に作りやすくアレンジしたものを、友達や親子で作成する。凧揚げでは、郷土民芸の扇だこも保存会の方に揚げてもらう。集会室にも観賞用の扇だこを飾っている。凧作りは和紙にヒゴを張り、絵を書き、紐をかけていくので長丁場の講座になっているが、今年は親子参加も多くスムーズにできた。当日は残念なことに風が弱く、凧が上がるかと心配したが、どの凧もバランス良く作ることができたようで、無事に上がった。

「～本の中の昔のあそび～ふれてみよう、遊んでみよう」  
いつも本の中で見ているもので、実際に遊んでみよう、触れてみようという企画。今年は本の中の遊びに特化した。その中で「富士見市文化財かるた」を体験した。また昔ながらの自転車付き紙芝居もお借りし、おはなし会も実施した。かるたはその絵柄にいろいろな謂れがあり、人材バンクの方から説明を受けることもできた。皆さん説明もよく聞かれ真剣にかるたを楽しんでいた。

#### 「学校連携報告書」

11月

鶴瀬小学校2年生が「みんなでつかうまちのしせつ」の単元で来館。2クラスは、10月に実施、インフルエンザで来館できなかった1クラスが11月に来館した。図書館YAサポーターは、つるせ台まっりの工作で参加した。

12月

学校司書とのコラボ企画で、毎年恒例の「スノーマン」と「スノーマンとスノードッグ」の上映を行った。図書館資料の中には、DVDという視聴覚資料があることも知ってもらう機会になっている。また、今年は学校司書さんによるパネルシアターや手話ソングも参加型で行った。

【ふじみ野分館】

・資料に基づき報告

お話し会や映画会等の数字は資料の活動報告の通りである。

図書館

「スタッフおすすめミニ展示」

毎月5日と20日に更新する。ふじみ野分館スタッフ各々がその時のおすすめ本の紹介を書き、関連資料も併せて展示をしている。現在178冊目になっている。来館時には是非ご覧いただきたい。

「壁面展示」

来館した子どもたちに、月ごとにテーマを変え折り紙を折ってもらい、廊下に飾っている。1月のテーマはトラックである。折り紙展示箇所には市内各名所のイラストを貼り、市内をトラックで巡るという形にした。子どもたちにも人気だった。

自主事業の報告

○ぶんちゃんひろば

対象は幼児から小学生。毎月内容を変えて実施している。

11月

「君も科学者！実験教室」

11月は、勝瀬中学校の科学部とのコラボで、「君も科学者！実験教室」を実施。科学部の皆さんが簡単だが、不思議が潜んでいる実験を2つ行った。1つ目は「水に浮かべる花」。トレーシングペーパーにお花の絵を描いて切り、折りたたんで水に浮かべると花が開くようにふわっと開いていく。簡単だが子どもたちにとっては「どうして？」という好奇心をくすぐられる実験だった。2つ目は「世界一飛ぶ紙飛行機」。子どもたちがいつも折っているように飛行機を折り、実際に飛ばす。その後に「世界一飛ぶ飛行機」の折り方で飛ばす。その違いを皆で確かめた。この折り方は科学部の生徒さんがある講座で習い、更に自分で改良を加えて考案したというものだった。子どもたちに教える時も、折り方の動画を撮り、スライドで流しながら教え、大変工夫していた。1人1台端末を生かしていることを実感した。勝瀬中学校の科学部とのコラボは2月も予定している。生徒の皆さんは毎回真摯に向き合ってください、子どもたちにも人気の科学講座となっている。

12月

「つくってあそぼう♪バルーンアート」

当館にバルーンアートがとても上手なスタッフがいる。そのスタッフが講師となり、風船遊びを交え、クリスマスならではの少し華やかなバルーンアートも作りながら、子どもたちと一緒に楽しんだ。

1月

「アフリカの太鼓ジャンベをたたいてみよう！」

ジャンベを作っている方がジャンベを10個ほど持ってきてくださり、親子で一緒に叩いてみる体験講座である。

講師名の「みるみるジャンベマルシェ」という名前は、ジャンベを叩いて、みるみるみんなで元気になっていけるようにという願いが込められているとのこと。まさに体験後は皆さん元気になっている姿が見受けられた。親子一緒に体験でき、大変好評だった。

○その他の自主事業

11月

「秋のはらっぱおはなしかい」

毎年恒例の勝瀬原記念公園でのお話会。人がいるところに図書館から出向いてお話会を楽しんでもらうとともに、図書館のPRもしている。たくさんの方が参加してくれた。富士見市子ども読書月間だったこともあり、ふじみ野分館のスタンプラリーを紹介し、その後の来館にもつながった。

「わくわくスタンプラリーミニ」

夏のスタンプラリーの縮小版。秋ならではの種や実を見て植物を当てるというボーナスクイズも取り入れた。11月の直前、ふじみ野小学校2年生が、図書館に社会科見学に来館した際、スタンプラリーの宣伝や台紙を配布した。その結果例年より多く小学生が参加し、10ポイント達成者もいた。

「富士見市子ども読書コンクール POP作品展示」

市内図書館3館で巡回している。受賞作品と近隣の勝瀬小学校、ふじみ野小学校、勝瀬中学校の作品を図書館入り口前に展示した。本来ならばPOPと本を並べて展示したいのだが、スペースの関係もあり全てできないのが残念である。その中で今回は中学生の部受賞作品を、POPと本を並べて館内で展示を行った。

「五感でたのしもう！絵本と音楽」

親子で参加するイベント。

絵本に音楽を付けて読み聞かせをする。そしていつもと違った世界を感じてもらう。リトミックは専門講師にお願いした。そして勝瀬中学校の演劇部にも協力を仰ぎ、リトミックのお手伝いや、読み聞かせをしてもらった。アンケートにあったが、中学生の読み聞かせは「身近な世代の方が読んでくれるので、本も身近に感じた」という感想もいただいた。

12月

「絵本に出てくるお菓子作り『スイートポテト』」

毎年内容を変えて行っているものである。さつまいもというと、三芳が有名で、その三芳のさつまいもを使った。

参加者にさつまいもの皮は食べるか聞いたところ、さつまいも自体はよく食べるが、皮は残すという話を聞いた。今回のスイートポテトは皮まで食べることができるので、食育につながる機会になると嬉しい。また、スイートポテトを焼いている間には、本の紹介や、本を使ったゲームなども行い、図書館ならではのイベントの特徴を出している。「家では時間がなく一緒にできないため、こういう機会があるといい」という感想もいただいた。

#### 「大人のためのおはなし会～あなたに贈る春待月の語り～」

毎年クリスマスイブに行う大人のためのおはなし会。おはなしボランティアすぷんふるとの共催である。今回45名の参加があり、今までで一番多かった。参加者から「12月24日を楽しみに1年を過ごしている」という感想もいただき、とても嬉しく思った。アンケートにはおはなしボランティアすぷんふるの素敵な語りを聞いての熱い感想もあった。図書館の役割としてもその語りを皆さんに届けられるよう、今後も努力していきたい。

#### 1月

#### 「箏 ヴァイオリン 打楽器による『雅なる和と洋の調べ』」

箏、ヴァイオリン、打楽器による和と洋の調べ。こちらはどなたでも異色コラボの音楽をお楽しみいただける会だった。中央図書館のロビーコンサートのつながりから実施できた。ふじみ野分館で大人の方を主体対象にした音楽イベントは初めてだったが、大変好評だった。

#### 「エアロブックス®」

定期開催をしているエアロブックス®。親子で心と体の健康を育む目的で行っている。参加者からは、「普段体を動かしていなかったので、動かすことができ良かった」という感想をたくさんいただいた。また今回は絵本専門士の大河原氏より、家庭での絵本の読み方についてレクチャーもある会だった。

#### 「ふじみ野交流センター主催 ふじみ野じゅく 協力企画」

「ふじみ野じゅく」には毎月資料提供と展示展開をしているが、年1回図書館が協力企画として参加している。今年は「大人の科学講座 食卓から探る生物多様性」とした。家庭でも煮干しやしらすは身近であり、大人の方にも楽しんでもらいたいという思いで企画をした。講師の方からスライドを使って多様性といった話もあったが、実際に煮干しを解剖し、心臓や腸などを探り、しらすを獲る時に含まれる小さな魚を見つけた。レアなタツノオトシゴなども見つかри、参加者同士の交流もあり楽しい時間を持てた。

委員	<p>【質疑応答】</p> <p>鶴瀬西分館の「歴史講座『富士見の遺跡散歩』」について、中央図書館の郷土資料コーナーの紹介など、図書館につなげられたらいいかと思ったがいかがか。</p>
図書館	<p>こちらの事業の中では、資料にもふれていただきたく、図書館で講座用にブックリストを作成し、参加者への配布、鶴瀬西分館での配布、また水子貝塚資料館にも配布をお願いし、資料につながるように工夫した。</p> <p>また鶴瀬西分館には「西地域コーナー」という地域を紹介したコーナーがあり、統合前の位置関係がわかる地図や航空写真などを掲示している。市内の資料館がない地域で郷土の情報を提供できる場として活用してもらいたい。</p>
委員	<p>きっかけを作り、中央図書館にもつなげられると、より自分たちが住む郷土のことを知ることができるので良いと思う。</p>
委員	<p>「郷土かるた」を、今回はイベントでA4に拡大したということだが、要望あれば図書館で貸出しは可能か。例えば小学校、中学校に貸し出し、子どもたちにより郷土のことを知ってもらう機会は考えているか。</p>
図書館	<p>郷土について知ってもらう機会は作りたいと考えている。今後検討していきたい。</p>
委員	<p>日々の業務に加え、夜間や土日の開館を維持しながら多彩な活動に取り組む図書館職員の尽力に敬意を表す。特に大人向けの企画が魅力的であり、「一日製本職人」「富士見の遺跡散歩」「秋のはらっぱおはなしかい」といった、地域再発見や季節感を楽しめるイベントは、大人も子どもと一緒に参加したくなる素晴らしい試みだと感じた。</p>
委員	<p>図書館要覧の統計資料のページ、郷土資料の除籍の件数が気になった。郷土資料は永久保存だと思うが、除籍しているのは複本であるのか。</p>
図書館	<p>複本があるもののみ除籍している。</p>
委員	<p>蔵書点検について報告をお願いしたい。</p>
図書館	<p>中央図書館は1月から書庫の点検を始めた。また、2月10日から2月16日までを休館にして開架の点検を行った。鶴瀬西分館は2月5日、6日に、ふじみ野分館は2月19日、20日にそれぞれ蔵</p>

	<p>書点検を行った。不明本は中央図書館が4冊、鶴瀬西分館が8冊、ふじみ野分館が5冊だった。</p> <p>3. 利用促進と広報活動について</p> <p>図書館 現在、図書館では来館者数および貸出利用者数の減少が続いている。各年代に合わせた多様なサービスを展開しているものの、その周知が十分ではなく、実際の利用に結びついていないのが現状である。そこで、効果的な周知方法や利用促進に向けたアイデアについて、ご意見をいただきたいと考えている。</p> <p>委員 子どもの活字離れや書店の減少により、本と偶然出会う機会が減っている。また、返却の手間や他の娯楽（スマホ、映画、マンガ）の台頭により、大人であっても図書館へ足を運ぶのが億劫になっている現実がある。 SNSや電子図書館のホームページを活用し、ストリートビューのような視覚的演出で「ふらっと立ち寄れる」入り口を作るなど、スマホ世代の興味を引く宣伝効果が期待される。あくまで入り口として考え、来館して「背表紙を眺める」「思わぬ本と出会う」といった実体験の楽しさを味わってほしい。</p> <p>委員 共働き世帯など忙しい保護者にとって、土日に図書館へ行くハードルは高い。実際、園の行事で初めて図書館を訪れる親子も多く、潜在的なニーズはあるものの「きっかけ」が不足している。 SNSでの発信はフォロワー限定になりがちだが、登降園時にパッと目に入る紙のポスターは、親子間の会話を生みやすく、非常に効果的な宣伝媒体となる。園での図書館体験行事やイベントは、保護者が「うちの子も図書館で静かにできるんだ」と気づく貴重な機会になっている。今後も図書館側からポスター提供などの協力を継続し、忙しい親子が図書館を知るきっかけを園と共に作っていききたい。</p> <p>委員 「朝読書」の習慣がある学校では本への関心は維持されているが、部活動や日々の多忙さにより、自由に読書を楽しむ時間が不足している。小中学校のうちに「本を読めば楽しい」と感じ、図書館へ足を運ぶための「下地（土台）」を作っておくことが不可欠である。 また、学校と図書館をつなぐきっかけとして、学校で導入しているタブレットを活用した「電子図書館」の周知など、学習と図書館の蔵書を結びつける機会を増やすとよい。また、中学生の興味を引くため「ショートムービー」や「案内動画」を共有することで、より具体的に図書館の魅力を伝えることができる。</p>
--	---

<p>図書館</p>	<p>紙媒体としてはペーパーレス化が進む中でも、廊下や階段に掲示する「大きなポスター」やチラシなどの物理的な掲示物は、生徒の目に留まるきっかけとして依然として有効である。</p> <p>図書館の取り組みとしては、新小学1年生への「セカンドブック」事業（カード作成・本贈呈）や、全小学生への電子図書館ID配布により、早期の読書接点を作っている。</p> <p>現在、電子図書館の利用率は約50%（11校中5から6校の活用）に留まっており、「配るだけ」にしないための活用推進が急務となる。今後は学校でのさらなる浸透を目指す。</p>
<p>図書館</p>	<p>4. その他</p> <p>2月21日「第44回富士見市社会福祉大会」にて図書館で活動しているボランティアが表彰を受けた。富士見市おはなしボランティアすぶんふる、読み聞かせボランティアあいあい、富士見市中央図書館修理ボランティアの3組である。現在中央図書館児童コーナーに賞状を掲示している。</p> <p>鶴瀬公民館主催の「あったかイベント」について。 3月15日10時から鶴瀬公民館で開催される。中央図書館、鶴瀬西分館、学校支援の方と参加して、ブックカフェトーク等を実施予定。</p> <p>次回図書館協議会開催日程 次回は6月12日（金）午前10時から中央図書館のレセプションルームにて行う。</p> <p>5. 閉会</p>